

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 6月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2572200240
法人名	特定非営利法人 びわの音・西近江
事業所名	グループホーム ねねの家
所在地	滋賀県高島市今津町名小路1-3-1 (電話) 0740-22-1665

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	2008年5月21日	評価確定日	2008年7月7日

## 【情報提供票より】(2008年 4月 10日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 12月 12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	9人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.2人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	2階 ~	階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	38,000 円	
敷 金	有( 300,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

## (4)利用者の概要( 2月 14日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2		6名	
要介護3	1名	要介護4		1名	
要介護5		要支援2			1名
年齢	平均 82歳	最低	68歳	最高	89歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	マキノ駅前診療所 藤本歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近江今津の駅から近く、田園風景が広がる地域にあります。モダンな外観で、一階にデイサービスを併設しています。ホームから外への移動には階段を使用する為、昇降で身体機能が維持されています。今までの高齢者福祉の現場に疑問を持ち、施設長の思いと理想を求めて立ち上げられたグループホームで、高齢になっても普通に穏やかに暮せる場所として、ホームを位置付けられています。理念にそったケアが日々提供され、側面からの援助で自立支援に重点を置いています。職員は、話し合いを重ね、協力しながらチームケアに取り組まれている為、離職が少なく、入居者と馴染みの関係が築かれ、混乱を招くことなく継続したケアがなされています。個別にかかわる時間を多く持てることで、入居者は落ち着いて毎日を過ごされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で確認した改善点については、カンファレンスで報告をし、職員間で話し合い、できることから改善に取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が職員と相談しまとめられ、改善点を把握し、計画にそって改善できるよう取り組む予定です。職員には、外部評価についての意義等の周知を図っています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民代表、地域包括支援センター、家族、施設長、管理者をメンバーとし、3ヶ月に1度開催しています。ホームの行事の報告、取り組みについて話した後、質疑応答しながら情報を得る良い機会となっています。外部評価結果も報告しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問の際には、施設長や管理者、職員が話し、要望にはすぐに対応しています。重要事項説明書にも窓口を明確にしています。また、運営推進会議も意見を聞く場となっています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事である夏祭り等に参加しています。法人で開催する祭りには、地域の方々を招待しています。また、日々の散歩時などに声をかけてもらったり、お花をいただいたりと、地域との交流は増えてきています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で暮らしていくために、自立支援に重点を置いた独自の理念を作っている。理念を具体化した運営方針もある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は玄関に掲示している。日々、理念に基づいたケアが実践されているか確認しながら取り組んでいる。カンファレンスの場で話し合うこともあり、職員信条も掲げ、職員一人ひとり理解して、ケアをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事である夏祭り等に参加している。法人で開催する祭りには、地域の方々を招待している。また、日々の散歩時などに声をかけてもらったり、お花をいただいたりと、地域との交流は増えてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員と相談し、自己評価をまとめられた。職員には、カンファレンスで外部評価についての報告をし、話し合い、できることから改善に取り組んでいる。外部評価の意義などは周知している。	○	日々のケアを振り返る機会となり、今後活かせるように、職員全員で自己評価を行い、自ら改善点を把握することが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表、地域包括支援センター、家族、施設長、管理者をメンバーとし、3ヶ月に1度開催している。ホームの行事の報告、取り組みについて話した後、質疑応答しながら情報を得ている。外部評価結果も報告している。		

グループホーム ねねの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのすぐ前が市役所ということもあり、頻繁に行き来している。ホーム便りを届けたり、市から様々な情報をいただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に一度、入居者の様子や行事報告を載せたホーム便りを送付している。また、預かり金の利用明細は請求書と一緒に領収書を付けて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の際には、施設長や管理者、職員が話をし対応している。重要事項説明書にも窓口の記載を行っている。また、運営推進会議でも意見を聞く機会となっているが、ホームに意見箱は設置されていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間では話し合いを多く持ち、協力しながら業務に当たっているため、この一年間での離職はなかった。施設長は、職員の手が足りない時には、すぐに応援に入れる体制をとっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の受講など、スキルアップのための研修受講を勧めているが、開催地が遠く、通いにくい為受講する職員は少ない。ホーム内ではカンファレンス時を利用して、勉強会をしている。	○	地域柄はありますが、研修を受講することは勉強だけでなく、業務を行う中で新たな気づきがあったり、スキルアップにつながることもあるので、積極的な受講が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近江地域のグループホーム協議会に参加し、施設長が世話役を務めている。他のホームとの交流の場となり、市の開催する懇談会は、意見交換したり情報を得る場となっている。	○	協議会では、近隣の他事業所との交流も兼ねたセミナーや勉強会を開催する予定であり、実現されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	2日か3日ぐらいの体験利用をしてもらっている。家族と共に見学に来られた場合は、リビングで入居者の紹介を兼ねて一緒にお茶を飲んだり、ホームの雰囲気に馴染めるようなコミュニケーションを大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や家事のこと等、入居者の得意なことについて教えてもらったり、助けてもらったりしている。その中で喜怒哀楽を共にしながら生活している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	些細なことでも話を聞き対応している。思いを表す事が困難な方には、表情から把握したり、その方の気持ちになって考えている。記録にも残し職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や入居者の意見を採り入れ、カンファレンスで話し合い、一人ひとりの特性を踏まえ、生活歴を活かした介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しで、状態の変化時には随時対応している。センター方式も定期的に見直し、再アセスメントにつなげている。		

グループホーム ねねの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や、美容室の送迎等、その時々要望に応じている。併設のデイサービスにも参加し、趣味を継続できる体制もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が、今までの主治医に診ていただいている。受診の際には、ホームでのバイタルサインを報告し、指示をもらっている。歯科医は往診してくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは看取りをする方針のないことを、家族には入居時に説明している。今後も取り組むつもりはない。重度化には、状態によって対応できている。医療連携加算はとっていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴時は、特に注意が必要な場面であると認識し、プライバシーに配慮し、他の方にはわからないように声かけしている。個人情報のファイルは、職員の使用する机の引き出しに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝は、時間を決めずに、一人ひとりのペースに合わせて、生活できるように支援している。昼寝も自由にされている。		

グループホーム ねねの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、後片付け等、できることを一緒に行い、同じテーブルにつき会話を楽しみながら、サポートするように支援している。夕食は同じ物を食べているが、昼食はそれぞれお弁当を持ってきている。	○	夕食は一緒の物を食べられているが、昼食も、検食を兼ねて、職員一人からでも同じ物を食べられてはどうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後1:30ぐらいから4:30ぐらいまでが入浴対応時間で、毎日でも可能である。順番も意向を聞き、希望にあわせて入浴できるように支援している。以前は就寝前の入浴も可能であったが、今のところ昼間に入浴の希望が多い。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味に合わせて、楽しみごととなるよう意識的に場面を作っている。例えば、ゲームのリーダー的な役割、特技を発表していただく等、皆さんの前で活躍していただくことで、自信につながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候に合わせて、毎日でも散歩に出かけるよう支援している。個別でドライブや買い物等にも行っている。ホーム横にある家庭菜園で作業することも気分転換に役立っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠していないが、ホームが二階にあり、階段がリビングの真ん中にあるため、安全を考慮して階段部分に鍵をかけている。外出傾向にある方には、気持ちをくみ取りながらじっくりと話を聞くことで落ち着いてもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、施設全体で避難訓練を行っている。消防計画を作り、職員の緊急連絡網も整備している。地域の方には、避難訓練をした際に、声をかけて協力を促している。ホーム独自では行っていない。	○	全体の訓練とは別に、夜間を想定しての訓練等、ホーム独自でも避難訓練をされることが望まれる。

グループホーム ねねの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他施設の栄養士のたてた献立を参考に、ホームで献立をたて食事を提供している。また、食事量や水分量もチェックを行い、医師からの指導で量を調整している。水分は意識的に摂っていただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節感の感じられるような飾り付けや、花を生けている。サンルームには、趣味の品が多くあり、何時でも提供できるようになっている。少し離れた場所にテーブルとソファを設置し、入居者のお気に入りの居場所が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室と和室があり、入居時に希望を聞いて決めている。使い慣れた家具を持ち込み、家族と本人でその配置を考え居心地の良い居室を作っている。タンスやテレビ、写真、装飾品等を置き、その人らしい居室になっている。		